

平成 21 年度

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200410		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	グループホーム 太陽荘（花ユニット）		
所在地	〒028-3614 岩手県矢巾町大字又兵衛新田第5地割28番地2		
自己評価作成日	平成 21年 9月 14日	評価結果市町村受理日	平成 22年 2月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372200410&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成21年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①地域の保育園・幼稚園・児童館の子供たちと交流をしている。太陽荘の行事に招待したり、園や児童館の行事に招待されたりしている。1ヶ月に1回程度ではあるが、継続的に交流を行っている。
②地区の小学校のボランティア活動や中学校の職場体験等を積極的に受け入れ、認知症についての理解を広める活動を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県内唯一の3ユニットのグループホームである。利用者は日常生活の中でそれぞれ食事の準備や後片付け等役割を担うほか、踊りや唄、楽器演奏等を楽しみ、ユニット間においても交流を図りながら生き生きと過ごしている。ホームで開催する太陽祭や物産会といった行事のほか、町内で催されるふれあい産業まつり等に出かけたり、保育園等との交流の機会を設けたり、町内向け広報紙を作成して情報を発信している等、理念である「和」のキーワードをもとに利用者・家族・職員・地域それぞれのつながりを支援している。なお今年度医療連携体制を整え、指針を作成して、利用者の重度化・終末期対応に向けた取り組みが進められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

平成 21 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者を中心として家族・太陽荘職員・地域などが「和」として繋がって行くことが出来るよう理念を作り上げ、ユニット毎に見える位置に掲示し、常に理解を深めながらケアの道標としている。	ユニット共通の理念のもと、職員は笑顔を忘れず、雰囲気の良いホームづくりをモットーとしている。また理念は広報にも掲げているほか、写真等を掲載して目に見える形で周囲からも理解が得られるように工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園・幼稚園・児童館との交流をしている。また、ホームの行事に近隣の方を招待したり矢巾町の行事に参加したりして交流を図っている。	近隣住民とは散歩時に挨拶を交わしたり、お花を頂いたりと日頃より付き合いがある。これまでも保育園や児童館と交流の機会があったが、今年から新たに幼稚園が来訪するようになる等、地域の交流の幅を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校・中学校のボランティア体験や職場体験学習等を受け入れており、認知症を理解してもらえるような取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており、入居者の状況・活動状況・課題等を報告し、意見・指導を頂いている。内容は、全体会議にて報告し、話し合い、理解を深めながらケアに活かしている。	ホームで開催する行事の開催時期や内容に関して意見を活かしているほか、委員である自治会長へ相談をもちかけ街灯が設置されたり、利用者の作品を公民館で展示する等の提案を頂く等地域の協力が得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者のこと等を相談し、助言を頂いたり、地域包括支援センターから情報を頂いたりして運営に活かしている。	日常的には、待機者に関してや入居希望者がスムーズに利用できるよう相談または情報交換等を行っている。また、地域包括支援センターと町内のグループホームによる地域への認知症理解に向けた取り組みが進んでおり、有線を利用した情報発信等が実施されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員でマニュアル等を読み、禁止の行為を理解し、拘束がもたらす弊害について話し合い拘束をせずに行うケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する内外の研修により職員間で理解を深めている。例えば帰宅すると言って外出しようとする際には、車に乗って一緒に自宅まで出かけ、気分が落ち着くまで話を聞く等により対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	カンファレンスにて虐待防止について学び、入居者が安心して生活できるようケアについて話し合い、不適切なケアの段階で虐待の芽を摘み取ることが出来るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会と連携しながら担当者がご利用者やご家族の環境やニーズに応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談を受け、説明・話し合い、納得して頂いた上で契約・解約行っている。改定についても十分に説明をし、随時疑問・質問を受け付け、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・家族の意見等をミーティング・カンファレンスで取り上げ運営に活かすよう努め、結果については運営推進会議や家族介護者教室で報告し、意見交流の場を設けている。	日頃より利用者及び家族とのコミュニケーションの中から要望等を汲み取るよう努めている。家族アンケートを実施し、日頃のケアサービスや対応等について意見や満足度を伺っており、ホームの運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の際、質問・疑問コーナーを設け、職員の意見や提案を聞く機会を作り、反映させている。	毎月の全体会議では全職員と法人幹部による話し合いが行われているほか、リーダー会議やユニット会議を通して運営に反映されるような仕組みがある。職員からは主に人員体制についての希望が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートや個々のヒアリングを通じて職員の考え方や希望等を的確に把握し、実地に努力しながら常にモチベーションが維持出来るよう配慮している。また、勤務時間帯も実情に応じ希望を取り入れながら柔軟に対応しており少しでも努力が報われるよう待遇改善に配慮しながら楽しく仕事が出来るよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修(OJT)・管理者研修・介護支援専門員研修・実践者研修・実践リーダー研修等の研修、また講演会等やGH協会主催の研修会等に積極的に参加・各資格取得に向けた研修などを紹介している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や町の連絡会に参加するなどしてネットワーク作り・勉強会や意見交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の電話相談・面接・本人希望による見学等を実施し、不安が生じないように柔軟な対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談や見学时・訪問時等、あらゆる機会を通じて家族の不安や要望を汲み取れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容から求めているものを見極め、サービス全般について話し合いを行なっている。場合によっては他の機関を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事準備・片付け・掃除等は一緒に行き、味付けや盛り付け方を教えて頂き編み物の得意な入居者からは編み物を教わっている。また、入居者から職員に手作りの靴下をプレゼントされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、手紙・行事・家族会等で様子を知らせると共に家族からの意向も聞いてケアに活かしている。また、随時連絡を取り合いながら何でも話し合える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・近所の方が面会に来てくださっている。外泊等も支援し、また以前利用していた美容室に行くなど馴染みの関係を切らないように努めている。	家族との外出のほか、墓参りや神社への参拝等の外出支援を行っている。利用者の職場の友人や近所の人が面会に来る際には、昔のエピソードを話すことで利用者本人もその時々を思い出しながら楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士に手伝いを頼み、楽しく会話しながら手伝いが出来るように支援している。まとめ役の入居者に声掛けしていただき、みんなで過ごせる時間を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も時々面会に行くなど、関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の行動・会話の様子を観察し、記録している。入浴時・通院時等、職員と1対1になった時の会話は新たな発見に繋がっている。	本音を察するためには人生の背景をよく理解することが大切であることを念頭に、何気ない話題から本人の意向を引き出したり、日々異なる表情や態度を見極め、利用者の思いを推し量りながらケアに当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の導入により、家族の協力も得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり様子を観察しながら気付いたことを記録し職員間で情報を共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで3ヶ月に1回の介護計画を見直し、家族の意向、職員間での意見交換が反映された介護計画となっている。	毎月行うカンファレンスで支援内容の経過や利用者の心身の変化について話し合い情報を集積し、介護計画の作成・見直しに活かしている。また利用者や家族の意向を踏まえ、手押し車の使用に至るケースもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの個別記録の他、8人の入居者の様子が分かる申し送り簿、職員間の連絡ノートを利用して介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3ユニット合同の行事の他、ユニットでカラオケに行ったり、美容・買い物の支援を行っている。また、入居者の家に必要なものを取りに行ったりと本人の希望に沿った対応をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からの関係を断ち切らないように近隣のかかりつけ医・美容室・琴教室へ行くなど支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な通院介助はホーム職員で対応し、遠距離のかかりつけ医への受診は家族の協力をお願いしている。診療結果は家族に報告している。	利用者の元々のかかりつけ医による受診支援をしており、職員が対応している。家族が付き添い受診する場合には利用者の状況や確認事項等を伝え、またその結果の報告を受けており、互いに情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットの看護師と一体となり、入居者の健康状態の情報を職員全員が把握するように周知徹底を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の通院時から医療関係者と相談しながら支援している。入院した際は、職員が面会するなどして医療関係者・家族との情報交換に努め、退院に向けた支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化ごとに家族と相談している。医療連携については、10月1日の施行に向け準備中である。	ホームでは今年度医療連携体制を整備し、指針を作成している。医療機関や訪問看護との連携においては、個票を作成し利用者に関する情報を共有している。なお、具体的なマニュアル作成は今後徐々に取り組んでいきたいとしている。	ホームでは看護職員が各ユニットにいるという強みもあることから、具体的な対応方法を想定しながらのマニュアルづくりを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	考えられる事故・急変事を話し合い、日々職員間で対応方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急通報設備の使い方を職員全員でマスターしながら年2回の避難訓練で避難方法等を確認している。	消防の協力を得て年2回の避難訓練を予定しているとともに、対応マニュアルを整備し職員に周知している。緊急時には携帯電話を使用して各階の連携を図ることとしている。火の元の注意が必要なタバコを吸う利用者はいるが、職員が管理し安全に配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の居室入室の際はノック・声掛けをし、プライバシーを損ねないように対応をしている。特にトイレ誘導の際は、羞恥心を損ねないように言動に注意し対応している。	利用者のプライドや羞恥心に配慮し、声の大きさや言動に留意している。また、失禁時など精神的に落ち込むことのないよう十分に話を聴く時間を設ける等の対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	午前と午後のティータイムの飲み物の選択や入浴時の衣類の選択・順番等自己決定できるよう促し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味の編み物・得意な琴の練習・歌を唄ったりハーモニカを吹いたり輪投げに興じたり買い物に出掛けたり等その人の希望に沿うように見守りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗顔・整髪・髭剃り・化粧などの身だしなみ・汚染された衣類を着用することのないよう、見守り・支援している。また、外出時の服選び等も本人の意向を聞きながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備のやりたい、という気持ちや役割意識を促すような声掛けをし、調理の準備から後始末までを入居者と一緒に行っている。また、職員も伴食しながら刻んだりほぐしたり、会話を交えながらその人のペースに配慮した支援をしている。	旬の物、食べたい物を聞き献立を作成し、食材の切り方や茶碗拭き等利用者もできる限り参加している。体調に応じた物やこれまでの食習慣から食事の出し方を変えている利用者もあり、各々に合った食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの病気や健康に配慮し、食事量や栄養のバランス、水分量が確保できるように毎日チェック表に記入し、1回量の少ない方にはこまめに水分を提供したり好みのゼリーをお出しするなどして状態や能力に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員は一人ひとりの口腔状態を見ながら入れ歯洗浄・歯磨き等、本人の能力に応じて見守り・支援しながら口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心・羞恥心を傷つけないように配慮している。日中は、声掛け・誘導することによりハビリパンツ・パット外しに取り組んでいる。	チェック表の記録により、一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導の声がけの目安としている。状況によってパット使用等の切り替えを行い、できる限り排泄の自立に向けた支援となるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し、食事やおやつを工夫したり、水分補給をこまめに行い、運動・散歩を取り入れながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきを原則としているが、希望者は毎日でも入浴できる。1対1の入浴時は入居者が心を開いて個人的な話や不安ごとを話されたりと重要な場でもある。気持ちを開放し入浴を楽しめるよう支援している。	入浴は1日おきに支援している。希望により毎日の入浴やシャワー浴を実施することもある。なお入浴を拒否する利用者には、無理強いをせず機を見計らって声掛けをするなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、自由に休息して頂いている。夜間は、物音に配慮・眠れない等訴えたときは、温かい飲み物を準備し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個々にセットし、二重のチェック体制がある。また、個々の薬の副作用や薬の変更による様子観察しながら常に状態を把握し、いつでも提携訪問看護師や当荘の看護師と連絡を取れる状態である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理作りや後片付け・モップ掛け・洗濯物たたみを手伝い、それぞれの役割を果たしている。編み物・琴・ハーモニカ・カラオケ等特技を発揮する力を励ましながら楽しみや気晴らしになるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日向ぼっこや散歩・買い物・喫茶店でのコーヒータム・居酒屋・カラオケやドライブなど本人の希望を取り入れ支援している。家族との外出や外食なども協力をいただき支援している。	暖かな日には散歩をしたり、要望に応じてドライブに出かけている。お酒が好きな利用者と居酒屋へ出かけることもあり、楽しみや気晴らしの機会となっている。歩行困難な利用者も居るが、外出する際には大変喜ばれるため引き続き支援していきたいとしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理し、外出時や外食時は本人の欲しいものが買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、電話を掛けられるように支援している。また、家族の誕生日にはお手紙を出したり、荷物が届いた際にはお礼の電話をしたりと支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう季節ごとに壁面装飾を変えたり、利用者に花瓶に花を生けて頂き、居心地良く過ごして頂けるように工夫している。	壁には季節の飾りや利用者が色を塗った絵などが飾られ、トイレは車椅子対応のため戸を外して広さを確保したり、表示が利用者の目線に合うよう低い位置に付けるといった工夫が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの窓際にソファやテーブルを置き、季節ごとに移ろう山々や田園風景を眺めながら入居者同士で談話できるように配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の生活歴等を尊重し、使い慣れた家具・楽器・趣味の道具を持ち込んで頂き、自分らしく過ごして頂けるよう工夫している。	利用者の馴染みのタンスや位牌等を持ち込み、好きな花を飾るなどして思い思いに配置している。またベッドで就寝する人もいれば布団を敷く人もおり、それぞれの居住スタイルに合わせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りの下、個々の居室内にモップがけをして頂いたり洗濯物をたたんで頂いたりしている。また、居室やトイレ・浴室など分かりやすいように表示をしている。		